

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22021		事業名	橋梁長寿命化修繕事業			
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()						
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目目	会計	01:一般会計
		基本施策	04:道路の保全・整備				款	08:土木費
		施策の方向	04:道路の適切な維持管理				項	02:道路橋梁費
重点プロジェクト	03:「しなやか田園都市」プロジェクト			目	06:橋梁維持修繕費			
	事業期間	H 27 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	道路法・道路構造令・道路橋示方書			

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	建設部
課	建設管理課 道路保全G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	市が管理する道路橋は315橋あり、今後20年後には約77%が建設後50年以上となる。橋梁の老朽化が急速に進展していることから、全橋梁の修繕を計画的に進める必要がある。	道路利用者	従来の対処療法的な修繕から、予防的な修繕を実施する予防的保全型へ転換し、安全で安心な道路サービスの提供を行うとともに、橋梁の長寿命化並びに修繕にかかる費用の縮減・平準化を図る。	橋梁の健全度点検を定期的に行うとともに、健全度判定に基づき、早期に措置を講ずべき状態(Ⅲ判定)の橋梁を第1優先として修繕を行う。予防保全段階の橋梁(Ⅱ判定)については第2優先とし、市が管理する全橋梁の修繕を計画的に進める。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度			
	事業計画	○健全度橋梁点検 ○橋梁補修設計 ○橋梁修繕工事		○健全度橋梁点検 ○橋梁補修設計 ○橋梁修繕工事		○健全度橋梁点検 ○橋梁補修設計 ○橋梁修繕工事		○健全度橋梁点検 ○橋梁補修設計 ○橋梁修繕工事			
		活動実績 (計画通り実施できたか)		国の補助金内示額は要望額を下回ったものの、橋梁修繕工事を計画どおり完了した。 ○工事 坂下中乃橋、布気跨道橋、太岡寺ばんだ橋、北山橋 ○設計 忍山高架橋 ○点検 69橋		国の補助金内示額は要望額を下回ったものの、橋梁修繕工事を計画どおり完了した。 ○工事 忍山高架橋、久我橋 ○設計 沓掛橋、河原谷橋、聖橋、沓掛新橋 ○点検 73橋					
		計画 予 算 額	事業費	57,000千円	60,600千円	76,000千円	79,727千円	112,000千円		55,000千円	
	国・県支出金		31,300千円	32,549千円	41,800千円	41,608千円	61,600千円		30,200千円		
	地方債		20,600千円	20,500千円	27,900千円	28,000千円	34,000千円		14,100千円		
	その他			0千円							
	決算 額	一般財源	5,100千円	7,551千円	6,300千円	10,119千円	16,400千円		10,700千円		
		事業費		60,600千円		79,727千円					
		国・県支出金		32,200千円		41,608千円					
地方債			21,800千円		28,000千円						
	その他		0千円								
	一般財源		6,600千円		10,119千円						
	①期間内計画額(R4-7)	300,000千円		②期間外計画額(R8-)	0千円		①+②総計画額	300,000千円			

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	23,766千円
当年度の最終予算額	67,000千円
次年度への繰越額	11,039千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	健全度点検橋梁数	健全度点検調査を実施した橋梁数(全315橋を5ヶ年で点検:R4～R8)	活動	橋	計画値	69	73	28	85
					実績値	69	73		
	修繕完了済橋梁数(累計)	健全度判定結果により修繕を実施した橋梁数(～R3:15橋)	成果	橋	計画値	21	23	25	27
					実績値	19	21		
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
	A	国の道路メンテナンス事業補助金を活用して、橋梁点検結果に基づいて予防保全的に修繕を行い、道路利用者に対して安全で安心な道路サービスを提供することができた。また、橋梁の長寿命化並びに修繕に係る費用を縮減することができた。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
道路利用者	従来の対処療法的な修繕から、予防的な修繕を実施する予防的保全型へ転換し、安全で安心な道路サービスの提供を行うとともに、橋梁の長寿命化並びに修繕にかかる費用の縮減・平準化を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項	
	5年に1度の定期点検において、早期に措置を講ずべき状態とされる健全度Ⅲと診断された橋梁については、次回点検年までを目途に、確実に修繕を実施する必要がある。また、予防保全としての補修費も膨大にかかるため、引き続き、国の道路メンテナンス事業補助金を活用していかなければならないが、令和6年度以降は補助金の措置率の低下により、修繕計画に遅延が生じる恐れがあるため、発注方法の見直しや、国の補正予算を積極的に要望していかなければならない。	

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの 塗膜に低濃度PCBが含まれている2橋については、低濃度PCBの処分期間が令和8年度末までとなっているが、国の補助金の措置率が低下しており、発注方法の検討を行った上で修繕を進める。	令和7年度以降で対応するもの 引き続き、橋梁点検結果に基づいて修繕を行うつつ、塗膜に低濃度PCBが含まれている橋梁については、令和6年度に検討した発注方法を基に対応する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	建設部 建設管理課 道路保全GL 竹内 光利
最終評価者	建設部 建設管理課長 山内 光広